

項目	諮問	意見	答申骨子(案)
外部評価の必要性	実効性の高い施策、事業の推進のために、市民の満足度や行政経営の効率化を高める行政評価を行っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 去年の委員会では、評価はするべきだという結論で終わっていた。 ・ 評価の仕組みを作ることによって、市民の行政やまちづくりに対する参画意識というものを作るきっかけになるという部分も大きい。 ・ 評価をフィードバックするということは、なかなか今までなかった視点で非常に大事なことで、是非やってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部評価の必要性については、行政改革推進委員会としても了承した。
導入の目的		<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会がチェックをする前に、行政側がチェックをする時点で外からの意見を聞いてチェックをしていこうということではないか。 ・ 外部評価委員会というかたちでチェックをする場所に一般の市民も入ってくることで、市民の方も行政に対する参画意識、協働の一角を担うかたちになるのではないか。 ・ 外部評価の一番の目的は、委員会の活動が改善に反映されていくという部分だと思う。評価するだけで終わってしまうのであればいけない。 ・ 評価すること自体に目的が生まれてしまう気がする。評価が目的ではなくて、改善とか改良に結びつけるということが一番大事なことで。 ・ 必要性や導入の目的、議会との関連やお互いの役割などをはっきりさせておく必要がある。 ・ 外部評価をする目的・目標がまだはっきりしない。それがはっきりすれば、行政改革推進委員会との関わり方も見えてくる。 ・ 市政や施策に対しての要望とか要求をするだけの委員会になっては困る。客観的に見て公平な立場で評価していく委員会なんだということはしっかりと覚えてもらわないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部評価の目的がはっきり謳われていない。評価すること自体が目的とならないようにすべきである。 ・ 「市民サービスの向上」のために改善していく委員会だと謳うべきである。

項目	諮問	意見	答申骨子(案)
		<ul style="list-style-type: none"> 導入の目的の中で、コストの削減が目的ではなく、住民サービスの向上を図るために導入するとはっきり謳うべき。 外部評価そのものは目的ではなく、市民サービスの向上が目的になっていくべき。 	
評価の対象	市の最上位計画である「第1次村上市総合計画実施計画」(199事業)を対象とするが、そのすべてを毎年度個々に評価するものでなく、評価対象事業をピックアップして行っていく手法が適当と考えます。	<ul style="list-style-type: none"> 評価する事業については、あくまで外部評価委員会ができてから、委員が判断すれば良い。どういう目的で、どんな認識で、どんな組織なのかというものをこの場で議論して答申していけばいい。 住民に対して特に関係している事業についてというように、ある程度基準を作って、評価する事業を絞っていったほうが外部評価委員会としてもやりやすいのではないかと。 	
外部評価委員会の位置付け	既存の総合計画審議会及び行政改革推進委員会といった母体をそのまま評価実施機関とするものでなく、新たに「外部評価委員会(仮称)」を設けるものとします。	<ul style="list-style-type: none"> 議会は行政をチェックする役割もある。評価、修正する機能というのは一番大事な議会の役割で、外部評価委員会と議会との整合性や優先順位はどのように区別されるか。 議会で評価委員会を作る必要はないとなったときに、議会との住み分けの部分について十分考えて整理しておいたほうが良いのではないかと。 議会は議会、外部評価委員会は外部評価委員会として考えていかないと色々と疑問が出てくる。 行政改革推進委員会との関わりが分からない。行政改革推進委員会で議論してきた考え方や方向性とのすり合わせをしていく必要性というものが出てくるのではないかと。 外部評価委員会の権限や市議会との優先権が分からない。本来であれば市民の代表である市議会がそれを持つものではないかという思いがある。 普段の生活の中で市民が行政に対して満足しているのかという意見を広く集めるための機関という位置付けでないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価委員会の権限、位置付けをしっかりと明記していただきたい。特に、議会との関わりについて役割を整理し、余計な混乱を招かないようにしていただきたい。

項目	諮問	意見	答申骨子(案)
		<ul style="list-style-type: none"> • どれだけの権限がこの外部委員会にあるのか。 • 委員会を設置することに関しては大賛成だが、「いつ、誰が、どこまで、何を」評価するのかというのが非常に難しく、まだ漠然としている。 	
委員の構成	学識経験者と公募による市民での構成を想定	<ul style="list-style-type: none"> • 評価する人が変わっても、仕組みさえしっかりしていればいいので、システムを考えていくべきだろうと思う。 • P D C A サイクルの考え方、位置付けは問題ないと思うが、外部評価委員会の人選をきちんとしたものにしないうまくいかない気がする。 • 市長は「幅広く団体等から委員をお願いしたい」と言われたが、それだけだと不十分。広く公募を行うという考えが必要。 • 団体等に属していない個人レベルの方ばかりを集めてやるというのも大変だと思う。公平無私な、行政のあるべき姿を評価するというメンバーを選ぶ必要がある。 • 公募するということは大事な事。関心があって、やる気がある人に重点を置くという委員構成も大事ではないか。 • 地域が偏ると、感覚というか、温度差が違ってくと思う。ある程度地域ごとから構成メンバーに入ってもらいたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 市民目線からの評価という目的を考えても、公募委員は必要である。 • 合併してまだ間もない中なので、委員の地域性も考慮していただきたい。
委員会の名称	「外部評価委員会(仮称)」	<ul style="list-style-type: none"> • 「外部評価委員会」という名称がちょっと重々しい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 市民サービスの向上が目的なんだと伝わるような名称を検討いただきたい。
委員会の体制・流れ	村上市における行政外部評価のあり方を検討するにあたっての事務局素案 <体制> 及び <流れ> イメージ図	<ul style="list-style-type: none"> • 評価をするに当たっては、勉強会が必要だと思う。いきなり集まってもらった人たちに行政の話をするとなるとちょっと難しいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 委員会の体制については、権限や役割といった委員会の位置付けがはっきり決まれば、おのずと決まってくると考える。

項目	諮問	意見	答申骨子(案)
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 外の意見を聴く機関が一つだけだとすると、ある意味では非常に危険ではないか。 ・ 評価する側が行政の考えと180度違うようになったときに、どこかの時点で誰かが、行政改革全体の流れを見ながらうまく舵取りをしていく必要が出てくるのではないか。 ・ 幅広い地域性をどうくみ取って外部評価をしていくのか、そのためには公平性だとか透明性、それから客観的にどう見るかというようなところの捉え方を議論してまとめたほうが整理がつくのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価委員に対する勉強会を行っていただき、財政状況や地域事情も踏まえた公平で客観的な評価委員会となるようにしていただきたい。
評価の方法			
評価結果の取り扱い	行政改革推進本部で方針を決定し、次年度予算への反映	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価をしても、最終的に市のほうで予算がないのでできないでは最悪のパターンとなる。 ・ 評価することももちろん大切だが、その評価結果をどのように取り扱っていくかということが大事なので、それについて提言していくのがいいのではないか。 ・ 今年評価したものが実際に反映されるのは来年、再来年なんてことになってしまうと全然即効性がない。 ・ 評価というものは市民の生の声なので、それをいかにフィードバックしていくかという、スピード、即効性という部分を外部評価委員会に求めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価することが目的ではない。評価したことが必ず改善に繋がるシステムの整備をしていただきたい。 ・ 評価については市民の生の声であるので、いかに早く施策に反映させていくかが重要である。即効性のあるものにしていただきたい。
結果の公表		<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部評価委員会で評価したものが議会上がったときに、それをどのように重視して議論をして次に繋げていくかということ自体も評価の対象になる。 ・ 評価したものを市議会がひっくり返すとなればそれ以上の何かが必要ではない。提案する側も非常に膨大な時間と労力を費やしたものを提案していくので、その重さというものも当然ある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価結果の取り扱いと併せ、評価したものが「どういう検討をして、どういう結果になったか」までをPDCAサイクルの一環として最後まで示していただきたい。